榆木小学校　学校通信
No.３７
なりたい自分になる！
PLUS ULTLA
令和７年１月１７日
文責　余宮

ずいぶん冬らしい気温が続いています。インフルエンザなどの流行がとても心配です

整理整頓の本当の意義を考えてみる

３学期が始まりました。３学期は本年度最後の学期でもありますが、令和６年から７年に移り変わる節目の時でもあるので、やはり、子どもたちのよりよい変化への飢えが強く感じられます。動物は「気温」などの自然現象によって変わることが多いのに対し、人間は「期日」によって節目を迎える、といわれます。確かに、１２月３１日と１月１日の日の出の意味は大きく違いますよね。その意味では、１月８日【３学期始業式】は、子どもたちにとっての節目。健康には十分気を付けながら、大きな飛躍の年になってほしいと願います。

唐突ですが、飛躍のためには整理整頓も大切。年末の大掃除で整理整頓された環境を、ぜひともキープしてほしいと願うばかりです。でも、並べるだけが整理整頓なのでしょうか。

「なんか、人が掃除すると調子がのらないんだよね。自分でやらないと…」

先日、けいこさん（仮名）がポロリとこのようにつぶやきました。私は大いにうなずきました。どうやら、整理整頓は、きれいに並べるとかしまうという単純なことではなさそうです。

そんなことを考えながら、熊本県立図書館でひと時を過ごしていました。そこには、「こども本の森　熊本」という子どもの本に特化した施設あります。２０２４年４月に開館したこの施設は、建築家安藤忠雄氏が、今を生きる大人から未来を生きる子どもへの贈り物として設計した素敵な図書館です。「活字離れが進む子どもたちに、本の楽しさ、豊かさを知ってもらおうと始まったプロジェクト」として、自由を感じられる場所を提供しようとデザインしたとのこと。一度足を踏み入れた途端、木造の豊かな空間にふわふわと浮いているような書籍が並ぶ、とても居心地のよい空間に包まれてしまいました。今まで手に取ったことのない書籍（なんと、古事記です）に、つい手が伸び、活字を追い、気づけば１時間ほどが過ぎ去っていました。お隣に飛び出す絵本を手にしたお子さん（５歳くらいかな）が、ふと私に本を差し出してきます。読んでほしいのかな？できるだけ柔らかく受け取り、活字のないその本を、そのお子さんと一緒に広げてみる。おのずとあふれる笑顔。

その後、通常の図書館に戻り、本を読もうかと思ったのですが…なぜか、そこでは本を読もうという気持ちが萎え、帰宅の途に就きました。

決して、通常の図書館を非難するものではありません。多分、その空間の意味が違うのだと思うのです。整然と本の背表紙が並べられた書棚は、確かに本を所蔵するためには最適です。ただ、その背表紙からは本のメッセージが強くは感じられません。逆に、こども本の森の空間は、ちゃんと並べればもっとたくさんの本がおけるはずなのに、１冊１冊の表紙がゆったりと並べられています。だからこそ、本自体から独自のメッセージが聞こえてくるような。これは、コンセプトの問題なのかもしれませんね。

翻って、けいこさんが言うように、整理整頓に関しては、その人の個性や目的が大きく関係しそうです。学期始のぜひこの機会に、ご家庭でも子どもたちに整理整頓を促していただきたいなあ。そして一言、口添えてくださるとうれしいです。「本当にそれでいいの」と。多分、そこにはその子なりの「なりたい自分」が見え隠れしていると思うんです。